

Estou Contente!

心を満足させること。

植松 早苗

(17-1, モザンビーク, 野菜, 静岡県立田方農業高等学校)

よろしくお願ひします。今日は、どんな発表をしようか迷ったんですけども、一通り自分がやってきた活動を紹介する中で、何かヒントになることがあればいいなと思って、全体的に紹介をしていくことにしました。協力隊に参加して最後一番感じたのは、どんな活動をするにあたって、自分の気持ちを満足させることが一番大事じゃないかなと思いましたので、この題名をつけさせていただきました。Contenteというのは満足と言う言葉になります。では発表を始めさせていただきますと思います。隊員帰国の様子です。帰国したときはこんな感じでした。迎えに来た家族が、ちょっと怪しい子たちじゃないの、ちょっと汚い子たちじゃないの、と思うくらい真っ黒く日にやけていました。3月の日本ではとても目立っていて、機中でも、あの人たちは日本人なのかどうなのかということを小さい子たちが怪訝に思っていたのを、今まだ1年経っていないんですけども、すごい遠い日のことのように思い出されます。帰国した次の日なんですけれども、実は次の日に、一度、自分がお世話になっていた任地に電話をしました。そしたら、何が起こっていたかという、電話の奥で、爆弾が爆発する音と、リビングと窓が揺れる音が電話の奥でしていたんですね。何が起こっているのかというのを聞いたときに、首都はマプトという町なんですけど、マプトの近郊の南にある軍の施設の弾薬庫が爆発をした。爆発をして、ロケット弾とか、あと・・・、軍の施設の周りにはバラック作りの民家が立ち並んでいたんですが、その民家に次々と打ち込まれていくというか自然に暴発をしてとんでいってという状態です。

右上の写真が、モザンビークの人たちが、爆撃というか暴発した爆弾の前で、北へ北へ歩いているところです。この間も、たくさんの爆弾が彼らの頭上を舞っていたということです。これはこの弾薬庫の近くに住んでいた友達が撮って送ってくれたものです。右下の写真が、彼女が勤めていた学校にロケット弾が着弾した様子です。彼女の学校からは、大体20キロくらい爆発した弾薬庫は離れているんですが、彼女の家から、左上の写真のようなキノコ雲が見えていたそうです。左下は、完全になくなってしまった市場の近くにあったいい学校なんですけど、もう全然なくなってしまった民家です。まだ帰ってきた次の日だったので、日本の空気の違い、3月の日本の、光がたくさんあふれている生活と自分が耳にした任国の任地状態との差がすごく激しく感じられて、ああ自分は日本に帰れてよかったというのを、強く感じたのを覚えています。このときに、日本で、次の日の新聞にのったんですが、国際記事だったので、

すごく小さな記事で、重症者300人、死亡者30人とのっていましたが、それでみなしごになった子たちも非常にたくさんいて、近くの学校とか教会などにたくさんの子どもたちが（もらわれていったと思います）。今モザンビークという場所の話をしていましたが、モザンビークという国がどこにあるかという、南アフリカの右上、マダガスカルとインド洋をはさんで対岸にあります。首都はマプト、公用語はポルトガル語、現地語はシャンガナやマクワ、それに・・・、大体主に10くらいの現地語が使われています。人口密度は大体1平方キロメートルに23人という考えられないですが、面積は大体日本の面積の2倍です。日本とのかかわりという、アルミなんかをモザンビークから輸入していたりだとか、魚介類で、モザンビークと書かれたものが、エビなんかで多く見られます。首都マプトは右側の地図にあります、モザンビークの中でも一番南側、ほぼ南アフリカと接するくらいの場所にあります。北はタンザニアとザンビア、南は南アフリカと囲まれていて、タンザニア、ザンビアなどは観光の国で非常に有名ですが、南アフリカも有名ですが、モザンビークはまだなかなか日本人にとっても大変なじみの薄い国だと思います。このあたりは緑が多いことから“アフリカの肺”と呼ばれていますが、先日ニュースの23（ツースリー）などでもやっていましたが、中国人による黒檀の伐採が非常に問題になっている地域でもあります。現地の人たちは、今日自分が生きるお金が欲しいのでとりあえずあるものを売ってしまうという生活を今も繰り返している場所です。私の任地も首都マプトからだいたい30キロくらい、市ではないので郡ということになりますが、農村地帯です。かなり多くのものが首都マプトからも流れてきますし、この辺の地域の野菜というのも首都マプトへ売られていたりもしています。住居は学校の敷地内に建つ教員住宅です。やはり水は出ませんでした。近所の人たちの様子です。アフリカは大家族の国ですが、同じ2LDKの家なんですけれども、中には8人とかで暮らしているお家もたくさんあって、中から出てくる子どもたちの多さに非常に驚いた気がします。子どもたちといっても、いとこやお姉さんの子どもとか、おばあさんの遠縁の子どもなんかを預かっている家もあって相互扶助という概念、非常に根強く残っている場所でもあります。鳥なんかは捌いていますが、こうやってほしい私も任地で食べていました。子どもたちはだいたい近所みんな一緒に育てていくので、今いる4人しか載っていないんですけど、この子たちも私の家にも勝手に入ってきて勝手にお菓子を食べたりして怒ったことも何回かありますが、そういうふうにして近所の人たちの温かい目に守られながら子どもが本当に可愛がられて育っていました。任地にはだいたい各都市にこういったカリソウ（？）と言うんですが、大きな葦みたいなものでつくった小屋に生活している人も非常に多くて、その小屋はたまにああいう散髪屋さんになったりしています。市場には野菜、おばさんたちが、大体女性ですね、女性が地元で取れた野菜を、今写っているのはレタス、トマト、タマネギ、あと養鶏が盛んでしたので、卵なんかも売られていました。それ以外のもの、調味料とかは右上にありますバラッカと呼ばれる雑貨屋さんなんかで買っていました。

ここから活動の話に移りたいと思います。活動のモチベーションとしては、私は全体的にオレンジの線が活動のモチベーションなんですが、なかなか急速にぐっと上がることはありませんでした。常にどうしようかなと悩みながらやっていた気がします。ただし、健康状態と生活に慣れる速さは、たぶん隊員の中でもかなりはやかったと思います。もう最後の方では別に何の不自由もなくバケツで水浴びもしていましたし、・・・にもお手伝いさんと一緒に行ったりしていました。健康状態も今日ちょっと風邪をひいていますが、モザンビークでは大きな病気一つすることなく、マラリアもかかることなく帰ってきました。活動内容ですが、一つは通常の授業です。農業学校に赴任をしましたので、通常の座学 45 分、座学でも 45 分の授業を 2 コマです。生徒の対象は一応エスコラセクンダリア（？）といいますが、大体中学校を卒業しているくらいの生徒からなので、16 歳以上であれば入学できるということなので、40 歳、45 歳というおじさんですね、自分から見たらすごい先輩もいました。授業はどうやっていたかということ、だいたい OHP を使ったりだとか黒板に大きな絵を描いて行っていました。なぜかというと、赴任当初から授業をお願いねって持たされたわけですが、大きな問題はまず現地の人たちの言葉を聴く能力、これは非常に苦労しました。それから書く速さ、黒板に書く速さというのはやっぱり限られた時間ですので、非常に生徒たちもいっぱい書きたいですね、教科書を持っていないから自分のノートを教科書代わりにしなきゃいけないので、その分たくさん先生にも書いてほしい。だけど私は書く速さは遅いので、それを補うためによく OHP を使っていました。それから一つは、定期テストの作成。3 学期制で学期にだいたい 3 回テストがあるんですが、そのテストの形式が日本の形式と全く違うので、そのへんは非常に苦労しました。問題の出し方によっても、生徒はわからなかったり、答えがわからなかったりとかしてしまうので、そのへんはまわりの先生と相談しながら、かなり時間をかけてやっていきました。それ以外、当初私の座学の授業には、この先生ですね、このシトリという先生が（普段）のパートナーでと紹介されたんですが、アフリカの多くの国でもそうだと思うんですが、大半の先生が副業を持っています。それは、自分の生活を守るため、もう一つはその先生はそうだったんですが、学校に通いながら先生として授業をしている先生もいます。もう一つは体調不良。アフリカは、途上国ではそうだと思うんですけども、ちょっとした体調不良が命にかかわることがあるので、ちょっとしたことでちょっと様子をみたいと言って休む場合が多々ありました。日本の方法押し付けるのは非常に簡単なんですけど、私は郷に入れば郷に従えではないですけど、できるだけ・・・していました。ただし、やっぱりそれだけだと自分の活動自体も不安がたくさんあったので、頼れるお母さんみたいな先生を、お母さんと言ったら失礼な年齢なんですけど探して、仕事とか生活、儀式とかでもわからないことなんかは必ず聞くような先生、その先生をつかまえて必ず聞くようにしていました。すごい些細なこと、生活の中でのちょっとした、水が出なかったらどうするのとか、薬はどこで買えばいいのとか、これがなくなったらどうしたらいいのとか、お手

伝いさんも・・・もわからないんだけど、というようなことは、生活すること自体が非常に大変なので、自分自身の大きな負担になるということで、できるだけ小さなことでも相談するようにしていました。そういった意味でその先生というのは向こうにいたときの自分のオブザーバー的な先生で、非常に心強いサポートをしてくれました。もう一つは、その土地において自分が初心者であるということを常に忘れない姿勢というのが、やっぱり気持ちよく相手が教えてくれる一つのマナーじゃないかなというのを強く感じました。日本人だからとか、やっぱり最初は言ってくるんですけど、私はたくさん知らないこともあるんだよといろいろ聞いていくと、初めてだからねと言ってたくさんいろんなことを教えてくれるようになりました。もう一つ座学以外にもやっていたことが実習なんですけれど、私は農業高校の教員免許でこちらの方が非常に親しみがあって、体を使ってやることはやはり非常に教えやすかったです。接木をやったことがない、接木は接木でもなんこう（？）なんかの接木は向こうでも主流です。今回はナスとトマトの接木をやってみたりとか、というふうに試しで接木を試験的にあるものでやってみました。元々手先は器用じゃないので成功率2割程度でしたが、非常に楽しそうにやってくれたのでよかったなと思います。ときどきこれ日本から持っていった簡易土壌検査機器なんですけど、それをちょっと多めに持って行って、ここの土壌は何性だねっていうのと言って、彼らも卒業論文を書かなきゃいけないのでそういうちょっとした手助けをしたりとか、ここでレタスを育てているんですが、ちょっと隣の畑を借りて生徒と一緒に日本の野菜を、あまりよくないかもしれないですけど、日本の種を持って行って日本の野菜をちょっと育ててみて、どんなふうに違いますかとかというのをやってみたりとかしていました。ただ活動していたんですが、いつもやっぱり片隅にあるのは私はいったいここで何ができるのかなということと、今まわりにいてくれる人たちは何を自分に望んでいるのかなというのを非常に、それをいつも考えながらやっていました。とにかくわからなかったら相談をする、不安に思ったら相談する、何をやってもらいたいかなというのも相談をする。相談をしてできそうなことをやってみる。やってみて出来なくても後悔はしない、というのをやっていました。やってみることというのでやってみたのは、1個はネリカ米の栽培をやってみました。ネリカ米自体は乾燥に強いということだったので、できるだけ水が簡単に準備できて乾燥しないところに蒔いてみたんですが、やはり雨季の雑草の力が非常に強くてですね、やっぱりネリカ米は負けてしまうことが多かったです。ただし栽培した場所にも多少よって収量は違ったので、そういうことでも彼らのいい実験になったのではないかなということ、新しい品種を自分たちが栽培できたという一個の誇りになったかなというふうに思っています。それからこれ最後の方ですが、貯水タンクの建築をやっていました。ここは大きなタンクがここからだいたい200メートルくらい離れたところにコンクリート製のタンクがあったのですが、やはり・・・なのでバケツで生徒が持ってくるという一人で栽培できる野菜の量、栽培面積というのが非常に限られていますので、できるだけ近いところにタンクを1個大きいタン

クを作ろうということで、先生の力を借りて穴掘りからやっていましたが、ちょっと粘土層が出てしまったので当初の計画よりは赤くなってしまいました。このへんは事務所の方なんかに協力いただいて予算を出して〜。同じ隊員にも大変なときは声をかけて手伝ってもらったりしながら、このへんの鉄骨を入れるというのは向こうで簡単にタンクを作るときにはあまりやらないんですが、今回はやってみようということでやりました。完成したのが、これが1個目のタンクなんですけれど、中にコンクリートを塗って帰る頃にはたくさん水が溜まっていた。もうひとつこれが、近くに住む先生が自分もやってみたいということで、その先生が私たちのやり方をまねて作ったタンクです。この活動をやってよかったというのは、生徒が喜んでくれたということ、もう一つ自分の中でいいけじめがついたなというふうに思います。それ以外には行事での発表、できるだけ行事で日本のことを知ろうみたいな、これは簡単に、広島出身の子がいたので原爆の資料をちょっと借りてこういうことが起こったんだよという、反応は様々でした。これは、折り紙。やはり手先が器用じゃないのでひどく不恰好なものになってしまいましたが、生徒たちは家に持って帰ったりして楽しんでくれていました。あとは行事にできるだけ参加をするということが一番私の触れ合ういい機会になったと思います。これはお手伝いさんですが、彼女は非常に仲良くしていました。近所の子たち、すごいいたずらっ子でしたけれど、とてもいい私と大人をつなぐいいコネクションになってくれていました。満足するコツですが、自分と人の活動は、現職参加で先生でいうと、なかなか自分の活動が一番だと思ってしまいがちだったんですけれど、人の活動と自分の活動をあんまり比較して自分を陥れないようにする、はまらないようにするということと、できなかったらできないことは早めに諦める。強情を張ってやり過ぎるのではなくて、早めに諦めよう。準備されている活動は、要請された活動はあるけれど準備されている活動はないので、自分でできるだけ早く活動を見つけるようにしていました。それから活動の基準は自分が関わっていることを幸せにできることで十分じゃないかなと思いました。任国は好きですかと今聞かれたら、やっぱり好きと答えられるかなというふうに思います。以上で発表を終わります。